

# 『やさしく、強い地域づくりとは』

## ～慕いあれば、備えよう～



近年、近所づきあいや町内会活動への住民意識が希薄化する中で、公的な制度だけでは対応困難な課題や大規模災害などの不測事態に対する地域ぐるみの活動がクローズアップされています。

8月24日(水)に開催した本研修会は、誰もが日頃安心して暮らせる地域・災害時に備えたやさしく、強い地域づくりをテーマに、参加された212名の地域関係者のみなさんと理解を深める機会となりました。



一般社団法人ウェルビーデザイン  
理事長 篠原 辰二氏

基調講演として、道内各地で各種の地域福祉事業や人材育成事業に取り組み、大規模災害発生時には、全国各地の災害ボランティアセンターで運営支援を行っている一般社団法人ウェルビーデザインの理事長 篠原辰二氏にご講話いただきました。

講話では、福祉は日常の暮らしの中にある「不安」や「怖さ」を、「安心」「安全」にしていくお互いさまの取り組み、制度などによる手段的な支援とともに、住民間の情緒的な支援を高めていくことが大切であると話され、各地の事例や被災した地域から学ぶ地域づくりとして、日頃からの一人ひとりの役割づくりと参加を促すための機運づくりの大切さについてお話しいただきました。

また、地域活動は「徒弟制」であるとして、次世代を担う若者たちに、地域づくりの方法や苦悩を伝えていくことについて提言いただきました。



研修会後半では、活動実践者として、西岡地区福祉のまち推進センターの事業部長 古屋氏、ライオンズ西岡町内会の福祉部長 大友氏にもご登壇いただき、座談会形式で篠原理事長と実際の地域活動を通じた「地域づくり」「機運づくり」「主体づくり」についてお話が進められました。

古屋氏からは、福祉のまち推進センターと町内会連合会との関係を強固にするために4年前に行われた組織体制の見直し、今の地域が一体となった活動の基盤となったことについて説明があり、最近では、町内会長さんから福祉のまち推進センター事務局へ町内での福祉活動の進め方についての情報提供やご相談をいただくなど西岡地区全体の福祉活動への機運が高まってきていること、また町内会単位での取り組みを推進している災害時の支え合いの体制づくりでは、先行している町内会の情報を事務局から他の町内会へ紹介することで、取り組みの拡大を進めていることについてお話しいただきました。

大友氏からは、町内会で進めている災害時支え合いの会の取り組みについて、マンション内での仲間づくり・集いの場所として開催したサロン活動がきっかけとなったことから、普段からのつながりづくりの大切さをお話しいただきました。一方で支援する側が段々と高齢化して、支援が必要とする側になっていることに触れ、現在は学生など若い世代への参加の声かけにも力を入れていることをお話しいただきました。

篠原氏からは、支援する側だけで体制づくりをせず、支援を受ける人たちの意見を聞き、またお互いに果たす役割をつくって、補い合い、想いを紡ぎ合いながら、より良い地域を創っていくことが地域力を向上させるための秘訣ですとお話がありました。



西岡地区福祉のまち推進センター  
事業部長 古屋 武哉氏



ライオンズ西岡町内会  
福祉部長 大友 壽子氏